



「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社 明治

私たちは、海洋プラスチック問題など地球環境への影響を踏まえ、取引先とともにプラスチック資源循環に資する、以下の活動に引き続き積極的に取り組みます。

- ① プラスチック製容器包装について、品質保持機能などその有用性を生かしつつ、可能な限りプラスチック使用量の削減が図れるよう商品設計を見直します。
例えば、プラスチック製容器および PET ボトルの軽量化・薄肉化の促進、プラスチック製容器から紙製容器への変更などに取り組みます。
- ② プラスチック製容器包装の素材として、植物由来の素材、リサイクルし易い素材、リサイクル素材など環境に配慮した素材の使用を推進していきます。
また、生分解性プラスチックの使用を検討します。
- ③ 生産過程において発生する廃棄プラスチックは、再生処理事業者を通じて再生品へのリサイクルを促進します。
- ④ 物流過程においてもプラスチックの使用量削減およびリサイクルに努めます。
例えば、クレート(商品配送用のプラスチック製通い箱)の段ボールへの変更などに取り組みます。
- ⑤ 河川や海岸などの清掃活動を通じて、地域の環境美化に取り組むとともに、海洋に流入するプラスチックごみの低減を図ることで、海洋環境の保全に努めます。

※関連 URL: <https://www.meiji.co.jp/csr/harmony/biodiversity/>

[2017 年度の事業所・グループ会社における生物多様性の保全活動]

連絡先: 株式会社 明治
担当部署: 明治 お客様相談センター
電話番号: 0120-598-369

取り組み事例の紹介〔1〕

<明治プロビオヨーグルト ドリンクタイプ>



* キャップ部分の重量を 10%削減しました。
さらに、PET ボトル部分の軽量化を進め、PET 樹脂の使用量を 1 本当たり最大で約 24%削減しました。

<きのこの山・たけのこの里>



* 内装袋のフィルムの接着層を 5 μ m 薄肉化により重量を約 9%削減しました。

<明治 エッセルスーパーカップ>



* カップのインナーシールの薄肉化により重量を約 27%削減しました。

取り組み事例の紹介〔2〕

<プチガム>



* 容器の素材をプラスチック製から紙製に変更し、内容量を変えずに容器のコンパクト化により重量を約44%削減しました。さらに、紙製容器の小型化を図りました。

<廃棄プラスチックのリサイクル事例>

ビンキャップ



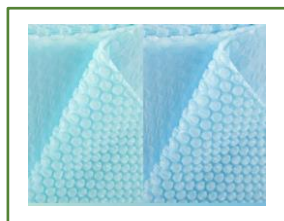
ストレッチフィルム



ヨーグルト容器



インナーシール



緩衝材など



ハンガーなど



再生ペレットなど

* 各工場が発生する廃棄プラスチックについては、性状・素材等により夫々に適した再生品にリサイクルされています。

2018年11月19日

「プラスチック資源循環アクション宣言」
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～



農業用生分解性資材普及会（A B A）

使用済みプラスチック排出削減へ
農業用生分解性資材の利用促進 活動宣言

農業用生分解性資材普及会（A B A）は、バイオプラスチックの一種で、土の中に存在する微生物の働きにより水と二酸化炭素に分解される生分解性プラスチックを使用した農業用資材の開発・利用・普及を図ることを目的として2004年に設立した団体です。

現在、生分解性プラスチックの特質に合致する農業用マルチフィルムの利用促進を中心に、原料や製品製造にかかわる会員14社、農業関連6団体で活動をしています。

土の表面を覆うマルチフィルムは従来、ポリエチレン製が多数を占め、栽培で使用した後は回収と産業廃棄物処理が必要ですが、生分解性マルチフィルムは使用後にすき込み（耕うん）することで土の中の微生物が分解するため、廃棄処理が不要になり、使用済みプラスチックの排出量削減に役立つ資材です。

本会は、不法投棄や海洋流出などによる環境問題の解決に貢献するため、使用済みプラスチックの排出削減になる生分解性マルチフィルムをはじめ農業用生分解性資材の一層の利用を促進する次の活動に取り組めます。

1. 生分解性マルチの利用促進に向けた取り組み

- ・海洋への流出など使用済みプラスチックによる環境汚染問題の対策となることを含めて生分解性マルチフィルムの利点や有用性を農業者や資材流通業者に理解してもらう取り組み
- ・生分解性マルチを農業経営に採り入れやすくするため、使い勝手や機能を向上させる技術開発の取り組み

2. 生分解性マルチの特性を有効に活用するための取り組み
 - ・土の中で水と二酸化炭素に分解する生分解性マルチの特性を生かすため、栽培圃場以外への飛散流出を防止し、使用後は十分なすき込み（耕うん）を実施するよう農業者に正しい使い方の啓発をはかる取り組み
3. 生分解性マルチ・プラスチックの利用場면을増やす取り組み
 - ・生分解性マルチを効果的に使用できる作物・作型の情報提供や、農業分野における生分解性プラスチックの新たな利用場面の拡大に向けた用途・製品開発の取り組み
4. 生分解性マルチへのカーボンニュートラルな原料導入に向けた取り組み
 - ・生分解性マルチに使用できるカーボンニュートラル（バイオマス由来など）原料樹脂の調査研究開発の取り組み
5. 国際協力の取り組み
 - ・海外からの生分解性マルチ使用に関する要請に対する積極的な支援の取り組み

農業用生分解性資材普及会 事務局
（日本農民新聞社 園芸情報センター内）
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-21
電話：03-3233-3633／FAX：03-3233-3666
<http://www.aba-seibunkai.com>



「プラスチック資源循環アクション宣言」

～お客様とともに この街に、あってよかった。～

株式会社フジ

フジは、国内外で海洋プラスチックごみが大きな問題となるなか、プラスチックごみの発生抑制・リサイクル促進に積極的に取り組んでまいります。

環境理念

フジは、「生活者の豊かなくらしづくりを提案し、支援し、地域社会の発展に貢献する」という理念のもと、企業市民として環境保全活動を積極的に推進し環境調和型企业を目指し、豊かなくらしづくりの推進に努めます。

【店頭での資源回収】

全店の店頭で回収ボックスを設置し、使用済み食品トレーや牛乳パックなどリサイクル可能な資源回収を行っています。お買い物時にいつでも気軽にリサイクル活動に協力できる場所として、多くのお客様にご利用いただいています。

また一部店舗では、総合資源回収スペースとして「フジECOステーション」を設置しています。ペットボトルの破碎、圧縮処理による資源回収により利便性の向上を図り、さらなるリサイクル推進に取り組んでいます。



2017年度回収実績

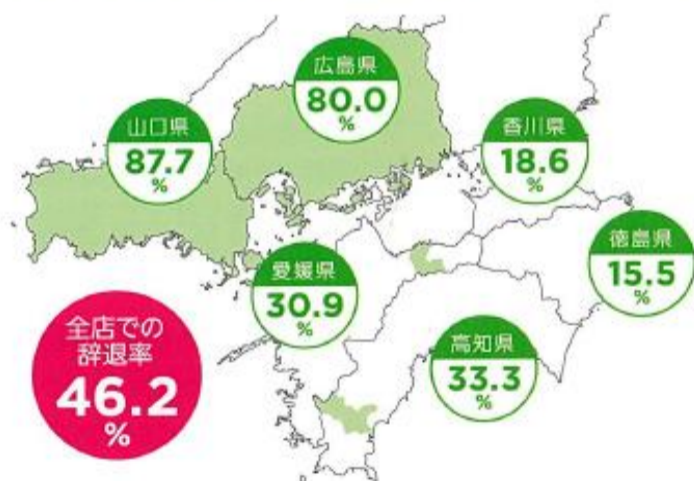


【レジ袋の使用量削減】

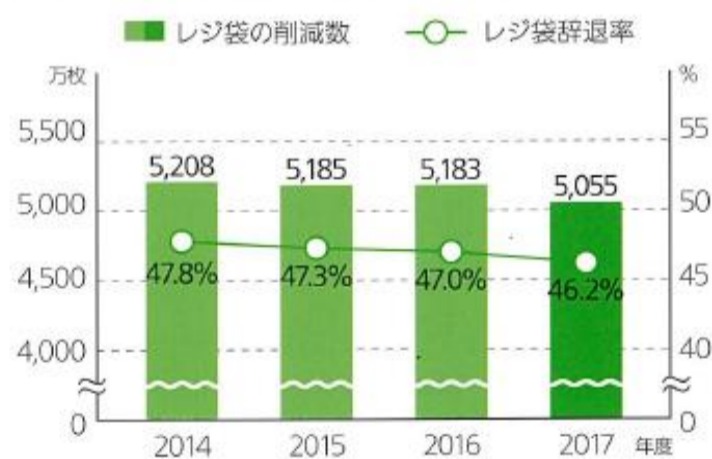
お客様のご理解とご協力をいただきながら「マイバッグ運動（レジ袋削減運動）」に取り組んでおり、プラスチック製品の発生抑制だけでなく地球温暖化の原因といわれるCO₂排出量の削減に努めています。

また、広島県、山口県、愛媛県新居浜市、高知県四万十市ではレジ袋の無料配布を中止しています。これらの地域では自治体と協定を結んで削減に取り組んでおり、レジ袋販売収益の一部を寄付することで地域の環境保全に役立てていただいています。

県別レジ袋辞退率(2017年度)



レジ袋辞退率とレジ袋削減数の推移



【ビーチクリーン活動】

毎年6月、従業員参加による海岸の清掃・調査を行っています。発泡スチロールやビニール袋、養殖用プラスチック管など多くの海洋ゴミを回収しています。



「鮮度保持容器で、ご家庭に鮮度を提供しながら 樹脂量の削減も」

ヤマサ醤油株式会社

ヤマサ醤油(株)は、開封後も醤油が酸化しにくい「鮮度保持容器」で2009年に「鮮度の一滴」を発売し、使い切るまでしょうゆの鮮度を保つという機能を提供し、かつ従来容器よりも樹脂量を減少させました。



また、ご家庭内での醤油使用量の変化に合わせた容量の変更・商品の使い勝手向上を目的に、継続的に容器の改良を行い、それに合わせて樹脂量も減少させていきました。



ヤマサ醤油(株)は、醤油を使い切るまでの鮮度の提供に合わせて、環境負荷の低減も考慮し、樹脂量の削減に努めてまいります。

お問合せ先: ヤマサ醤油株式会社 営業本部 企画室
電話番号: 03-3668-8556
URL: <https://www.yamasa.com/>